

ハセベケンの緑鳥増殖中! volume 9

NPOは進化し続けています!

今月のゲスト

駒崎弘樹さん

NPOフローンレンス代表

今回の対談のお相手は、NPOフローンレンスの代表・駒崎弘樹さん。育児分野での社会問題の解決に取り組むフローンレンスは、多くの成功事例を生み出し、今や業界をリードするNPOです!

photographs by Kazushige Suzuki(brand new/fabrique) text by Yukino Inui

2005年4月に、日本初の共済型・非施設型の病児保育サービスを開始したNPOフローンレンス。病児保育とは、病気の子どもを預かること。通常、保育園では熱を出した子どもは預かってもらえず、仕事を休む親にとっても大きな問題だ。そこでフローンレンスでは、熱を出した子どもを、病児保育スタッフとしての研修を受けた子育て経験者が「レスキュー隊」として、在宅で病気の子どもを看るサービスを開始。このサービスは反響を呼び、現在では、東京23区および浦安市、川崎市、横浜市に広がり、働く家庭をサポート。また、2010年からは待機児童問題の解決のため、空き住戸を使った「おうち保育園」を展開するなど、育児と仕事を両立できる社会をつくるため様々なサービスを考案する。

そんなフローンレンスの代表を務めるのが駒崎弘樹さん。一世代下のNPO業界を牽引している逸材に、ハセベケンもたっぷり刺激を受けてきました!

ハセベ どうしてフローンレンスの事業をNPOとして始めようと思ったんです。欧米だと、NPOにも予算があり事業としてきちんと成り立って



いる。一方、日本では少し前までNPOはボランティア、と捉えられていた。今後社会がどんどん小さな政府になり、皆で地域をよくしていくべきなのに、その中でNPOの存在があまりに脆弱だと思っただけです。そこで、まず自分たちが公共サービスを自ら立体的なNPOのロールモデルになろうと思ひ、興味のある病児保育という問題に取り組もうと卒業後にNPOを立ち上げました。

ハセベ すごい行動力だね。でも、周りは心配したんじゃない?

駒崎 そうですね、最初は周りから全く理解されませんでした。もともと僕は、在学中にITベンチャーの経営者をしていました。それで「IT経営者をやめてNPOの経営をやります」と言ったら、「どうしちゃったの」「立派だとは思うけど……」と(笑)。ただ、もちろん法人形態は考えませんでした。ですが、ITベンチャーとして株式会社を経営していた身からいうと、やはり株主の利益を最大化するのが株式会社であり、株主は無視できない。でもNPOは、儲からなくても事業を進めなくては行けない時がある。つまり、株主の存在は相反するものになるんです。なのでやりたいことのためにNPO

を選びました。

ハセベ ITベンチャーの頃は、社会貢献は考えなかったの?

駒崎 当時のITというのは、新しいものを生み出して社会をよくしようという風潮があり、IT自体がよいことだと考えられていたんです。ですが、ホリエモン事件から風向きが変わって、また、経営の中で、自分はITそのものが好きなわけではないと気づいたんです。それよりもっとダイレクトに社会を変えたい。でも今から官僚を目指すのも違う……。そんな時、アメリカではNPOがプロとして社会的問題を解決しているのを知り、これだと思っただけです。

寄付税制でNPOが変わる。

ハセベ 設立当時はNPOの社会的認知度が低かったから、大変だったでしょ? 今こそフローンレンスはNPO業界をリードして、結果を出しています。最初は何もなかったし、食え

なくてアルバイトもしていました(笑)。大学ではNPOを勉強していたので、NPOって今すぐブームなんだ! と思って社会に出たら、実際はアレ……という感じで。そう考えると、最近はずいぶんNPOを取り巻く環境がよくなりましたね。

ハセベ 確かにここ10年でガラッと変わったね。NPOもたくさんできたり、成功事例も増えた。就職先や転職先にもNPOが候補として当たり前になったのも嬉しいね。

駒崎 とはいえ、NPOの認知度が上がったといっても、きちんとNPOに就職して生きていけるようなプラットフォームづくりはまだ必要です。そして、その一つのポイントになるのが、今年1月から導入された寄付税制。実は僕、去年の1月~6月に内閣府のパートタイムの官僚として務めており、ちょうどこの寄付税制にも関わっていました。今回の改定により、NPOは経営基盤を大きく強化できることになりました。例えば、NPOは「30



こまざき・ひろき ●1979年生まれ。99年度慶應義塾大学総合政策学部入学。在学中に学生ITベンチャー経営者として様々な技術を事業化。同大卒業後、ITベンチャーを共同経営者に譲渡し、NPO法人フローンレンスを設立。厚生労働省「イクメンプロジェクト」推進委員、2010年10月よりNHK中央審議会委員に。12月より内閣府「新しい公共」専門調査会推進委員に任命される。著書に「働き方革命」(ちくま新書)、「社会を変える」お金の使い方(英治出版)ほか。http://www.florance.or.jp/

00円以上の寄付者が年100人以上」という条件を満たせば認定NPO法人として認められるようになります。これで収益力も増し一歩進んだNPOのサービスが期待できるでしょう。また、個人が認定NPOに寄付をした場合、寄付した人の所得税額から一定の税額を差し引けるようになり、今後は多くの人が気軽に寄付するようになるのではと考えています。

よく「日本人には寄付文化がない」と言われたりもしますが、それは違う。歴史的に見ても、神社や仏塔などの公共物は地元民から寄付でつくることが当然で、日本にはれっきとした寄付文化

がありました。今回の寄付税制によって、もう一度寄付文化を思い出し、一人ひとりが問題を解決し、よりよい社会をつくらうと行動するきっかけになればと思います。

ハセベ 政治家に頼るだけでなく、自分はこの世の中をつくりたいと当事者の意識を持つことが必要なんです。今後はどう風を活動を広げていくつもり?

駒崎 具体的にはまだ決めていませんが、10~20年先も何らかの形で社会問題の解決に関わりたいです。そして、こういう社会をつくりたい、と多くの人々が気軽にNPOに関わってもらえたら嬉しいですね。

はせべ・けん ●渋谷区議会議員。NPOグリーンバード代表。1972年3月東京都渋谷区神宮前に生まれる。専修大学商学部卒業。2002年に広告代理店の博報堂を退社。その後、ゴミ問題に関するNPOグリーンバードを03年1月に設立。原宿・表参道を中心に、ゴミのポイ捨てに関するプロモーション活動を開始する。03年4月に渋谷区議に当選。現在、2期目渋谷区議会議員・無所属。http://hasebeken.net/



ハセベケン日記

グリーンバードとフローンレンスがNPO法人として活動を始めたのは、1年くらいの違いで、ほとんど同時期。ゴミと保育と、畑は違うけど、同じNPOとしてガンガンと事業を拡大し、ガンガンと社会の役に立っている元気なNPOとして、スゲーという正直な気持ちで眺めていました。その「運転手」が今回の駒崎くん、まさにソーシャルアントレプレナー(社会的起業家)というお人です。僕なりの理解で簡単にいうと、いわゆる起業家は、報酬や売り上げでその成果を図るけど、ソーシャルアントレプレナーは、社会でどれだけ役に立ったかで成果を考えると違いがあると思います。病児保育という社会課題を、ビジネスの視点を持ちつつ、改善に向けてアクションを起こしている駒崎くんの活動は、僕らNPOがもっとベンチャーであるべきだというメッセージのように感じられ、大きな刺激をもらっています。

今後、駒崎くんのような生き方を選択する人がドンドンと出てくる世の中になると思います。っと、おじさん視点になってしまいました。まだまだグリーンバードもドンドンいっよー。

全国各地で拡大中! ゴミのポイ捨て、カッコ悪いぜ!

寒い日が続きますが、もうしばらくすると待望の春! そろそろ動き出す準備を始めませんか。最新の活動スケジュールはHPにて。お気軽にお越しください。

2月18日(金)の朝は、新宿フラッグス前に集合!

恒例となったGAP JAPANとグリーンバードのコラボレーションそうじ。今年もいよいよスタートです。ちょっと早めに家を出て、お仕事前にいかがですか?

2月18日(金)8時半集合 ※途中早退OK
集合場所:GAP新宿フラッグス店前

あの街、この街、グリーンバード。

2月も全国各地で、様々な活動を予定しています。親子でも、会社仲間でも、お気軽にご参加ください。

- 2月8日(火) 湯沢:温泉街そうじ
 - 10日(木) 神戸:三宮夜そうじ
 - 11日(金・祝) 熊本:マチナカレッジそうじ
 - 12日(土) 静岡:土曜そうじ
 - 15日(火) 新宿:新宿マルイ本館コラボそうじ
 - 20日(日) 宮崎:昼そうじwithランチ
 - 26日(土) さいたま:大宮そうじ
 - 27日(日) 名古屋:大須そうじ
- ※上記以外のスケジュールは、HPにてご確認ください。

「green bird」事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6丁目35番3号206号
tel.03-5469-5318 fax.03-5469-5338
Eメール information@greenbird.jp
http://www.greenbird.jp/